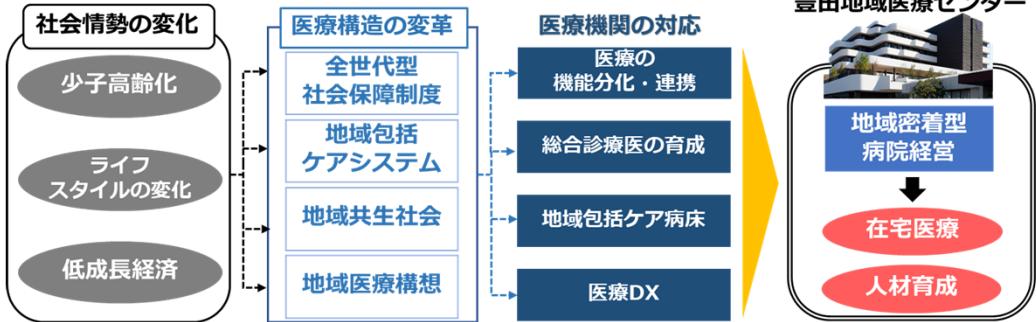




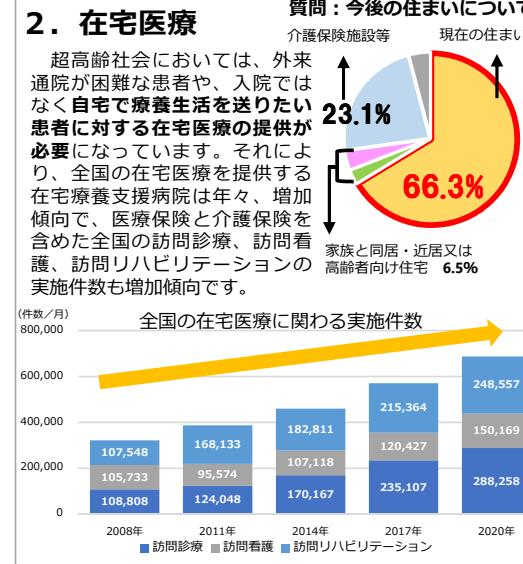
豊田地域医療センター『コミュニティ・ホスピタル』最終報告 概要版①

1. 社会情勢

高齢化の進展による地域包括ケアシステムや地域共生社会の構築、2025年向けた地域医療構想による医療の機能分化と連携に伴い、地域医療のあり方も大きく変化しようとしています。そのため、これまでの病院完結型の医療ではなく、地域で療養生活を支える地域完結型の医療提供体制を構築するため「地域密着型の病院経営」が求められ、その受け皿となる地域包括ケア病床や在宅医療を充実させ、地域における医療人材の確保を進めていく必要があります。それと同時に、医療・介護現場の質の確保や生産性向上、働き方改革にもつながるよう、医療DXの推進の積極的導入も必要になります。こうした医療を取り巻く環境の変化や、自病院の地域における役割を明確化するための病院像が必要となります。

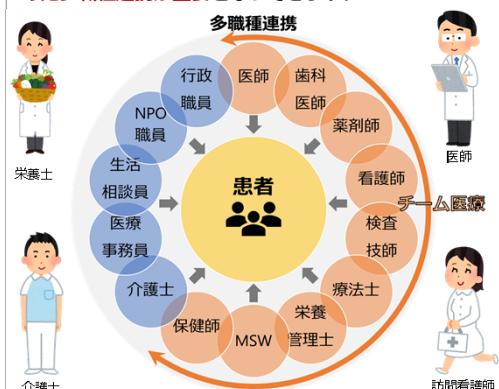


2. 在宅医療

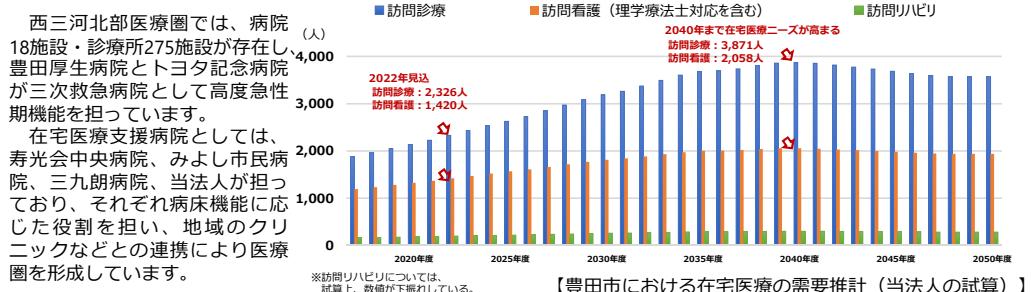


3. 在宅医療を担う人材

今後、地域包括ケアシステムや地域共生社会等の基盤整備において、在宅医療を担う人材の確保や職種間連携、関係施設の連携、在宅医療に関わる従事者の質の向上が重要です。そのため、医療関係者の連携によるチーム医療だけでなく、介護福祉、行政、NPOまで含めた多職種連携が重要となってきます。



4. 2次医療圏における病院の位置づけと在宅医療の推移



5. 新たな病院像

第8次豊田市総合計画にある地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域との関わりを大切にした病院経営を展開する「**コミュニティ・ホスピタル**」を新しい病院像として定めました。私たちの目標はコミュニティ・ホスピタルは、地域医療機関等と連携し、次のように定義します。

病棟・外来・在宅をシームレスにつなぎ、地域との関わりを大切にした病院

- ① 総合診療を中心とし、地域住民の健康管理や救急医療をはじめとする必要な医療を提供できる病院
- ② 充実した在宅医療体制を有し、地域の医療・介護・福祉機関と協力して地域包括ケアシステムの構築に貢献する病院
- ③ 地域医療に関わる人材が体系的に学び成長できる環境を整え、人々が集い交流する地域に開かれた病院

豊田市の行政計画

第8次豊田市総合計画(2017年3月)

- 必要時に受診できる医療提供体制の確保
- 在宅医療を推進するための環境整備

在宅医療・福祉連携推進計画(2018年3月)

- 豊田地域医療センターの再整備
- 在宅医療推進の拠点と総合診療医の育成
- 市民・専門職への在宅医療に関する啓発・支援



在宅医療推進に関する連携協定（2015年6月）



先進技術を活用した地域リハビリテーション及び在宅療養の推進に関する連携協定（2020年3月）

豊田地域医療センター 病院像「コミュニティ・ホスピタル」



6. コミュニティ・ホスピタルの構成要素

① 重点領域

- 総合診療**
- お年寄りから子どもまで年齢及び利用シーン（病棟・外来・在宅・救急）に関わりなく、シームレスに多くの疾患や健康問題に対応する医療
- 地域リハビリ**
- リハビリの切れ目のない提供体制とライフステージにそった適切な総合的リハビリを地域医療機関や住民と共に考え提供する医療
- アレルギー**
- 気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患、喫煙関連疾患等の診断率向上、予防、治療を行なう医療

② 行動指針

- 健康づくり**
- フレイル予防など健診による地域住民の幸福寿命の延伸と健康管理機能を支援する行動
- まちづくり**
- 高齢者や障がい者の社会参加の推進、地域資源の活用による地域課題の解決を支援する行動

③ 運営方針

- 地域の医療・福祉機関との連携強化
- 在宅医療推進拠点機能の充実
- 効率的・積極的な病院経営

昭和55年の病院設立時以来、地域に不足する「救急医療」「健診・検査」「看護師養成」の3つを柱に地域医療を支えてきました。今後もこうした取組みを土台に、急速に押し寄せる高齢化の波に対し、「在宅医療の推進」という新たな役割を果たすため、「コミュニティ・ホスピタル」を推進し、医師会・行政をはじめとする関係機関と連携し、時代の流れを的確に捉えた病院経営を目指します。

7. コミュニティ・ホスピタルのマトリクス展開

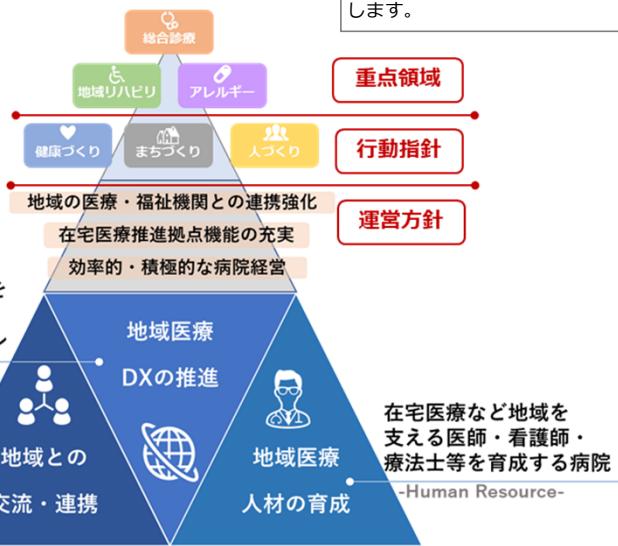
マトリクス展開

コミュニティ・ホスピタルを実現する「地域との交流・連携」「地域医療DXの推進」「地域医療人材の育成」の3本柱は、コミュニティ・ホスピタルの構成要素（重点領域・行動指針・運営方針）を横断的に展開した事業です。

コミュニティ・ホスピタル -Community Hospital-

中期経営計画

これらの柱は、第V期中期経営計画（2022年度から2024年度）と連動し、病院経営全体の中で検証します。



8. コミュニティ・ホスピタルのイメージ

1 外来診療

一般・専門外来、救急外来

一般・専門外来として、総合診療科・消化器内科・循環器内科・耳鼻咽喉科・皮膚科・神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・放射線科・泌尿器科・内科・小児科・外科・歯科、救急外来として、内科・小児科・外科・歯科を提供しています。

10 リハビリテーションセンター

リハビリテーションロボットなど最新の医療機器の導入により質の高い医療提供を目指します。

9 手術室

外科、整形外科で2室の手術室が稼働し、腹腔鏡手術など全身麻酔が必要な手術から日帰り可能な手術を行っています。

8 コミュニティ ドクター＆ナース

梅坪台中学校区・稲武中学校区の情報収集、地域住民と一緒に健康なまちづくり、コミュニティドクター＆ナースの人材育成に取り組みます。

7 在宅部門

在宅医療

在宅医療支援センターは、在宅医療部門・豊田地域訪問看護ステーション・豊田地域ケア支援センター・豊田地域居宅介護支援センターによって構成され、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・ケアプランの作成・高齢者の総合相談窓口を提供しています。

2 入院診療

地域包括ケア病床

一般病棟100床、地域包括ケア病棟50床、回復リハビリテーション病棟40床で構成されています。



3 健診

人間ドック

人間ドック・豊田市健康診査等を提供し、豊田市の健康を支えています。

4 医局

総合診療医の育成

総合診療医により病棟・外来・在宅のシームレスなケアを住院に届ける病院を目指しており、中小規模病院で働く医師の専門性を新しく確立していく必要があります。豊田市における地域包括ケアシステムに寄与することを目的に「連携地域医療学講座（藤田医科大学総合診療プログラム）」を設置しました。

5 地域医療人材育成センター

豊田訪問看護師育成センター
豊田総合療法士育成センター

地域包括ケアシステムの一翼を担う在宅医療推進の拠点として、在宅医療・介護を充実させるため、訪問看護師・療法士・その他多職種等の医療人材の育成を行っています。また、市民・専門職への在宅医療に関する啓発・支援活動を行っています。

9. コミュニティ・ホスピタルの具体的な展開

コミュニティ・ホスピタルの実現に向け、新たな医療の重点領域を中心とし、人づくりや健康づくり等の行動指針に基づき、地域との関係を戦略的に取り入れた病院経営を行うため、取り組む事業を「地域との交流・連携」「地域医療DXの推進」「地域医療人材の育成」の3本柱としました。

各柱において、予算や人材を優先的に投資する事業を**重点事業**として位置づけ、メリハリのある事業展開を行います。

(1) 地域との交流・連携 (CI : Community Interaction)

～地域から信頼され親しまれる開かれた病院～

重点事業

- ① コミュニティドクター＆ナース
- ② 地域リハビリ活動
- ③ 総合アレルギーセンター開設

- ① 地域医療連携室の取組み
- ② レストラン「ほがらかふえ」の地域活動
- ③ 豊田つながりプロジェクト
- ④ トヨチサポーター（病院ボランティア活動）
- ⑤ トヨチファン開拓プロジェクト（戦略的広報）



【コミュニティドクターとコミュニティナースによる地域交流】

(2) 地域医療DXの推進 (DX : Digital Transformation)

～デジタルなど新たな技術を取り入れたスマート・コミュニティ・ホスピタル～

重点事業

- ① 地域リハ イノベーションセンター&スマートリハビリ
- ② 次世代ナーシング
- ③ 呼吸器患者のICT連携システム

- ① ラインワークスの運用見直し
- ② クラウドERPシステム活用
- ③ スマート健診
- ④ マイナ受付
- ⑤ オンライン診療
- ⑥ 在宅部門でのデジタル機器活用



【1人1台スマートフォンを活用】

(3) 地域医療人材の育成 (HR : Human Resource)

～在宅医療など地域を支える医師・看護師・療法士等を育成する病院～

重点事業

- ① 総合診療プログラム
- ② 地域医療人材育成センター（訪看・療法士）
- ③ トヨチ流おもてなしプラン（接遇改革）

- ① 豊田地域看護専門学校
- ② TQM (Total Quality Management) プロジェクト
- ③ カイゼン文化の醸成による人づくりプロジェクト



10. 今後の取組み

2023年度以降は、各取組事業の効果測定を中心に検討を進めため、「(仮称) コミュニティ・ホスピタル検討評価委員会」として各事業の事業を検証予定です。

	2020年												2021年												2023年以降～																					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月										
ソフ													○ ↑コミュニティ・ホスピタル 検討委員会（2カ月に1回程度）																																	
ハド																																														
ソフ																																														
ハド																																														

事業効果測定

- ・ 様々なニーズに対応した事業の立案
- ・ 必要度の下がった事業の見直し、廃止



(1) 地域との交流・連携

地域から信頼され親しまれる開かれた病院

【重点事業】

① コミュニティドクター&ナース

～医療従事者による地域へのアウトリーチ活動～

- ・稻武地区における地域住民の健康相談と個別訪問
- ・梅坪台交流館でのまちかど保健室
- ・医療従事者による終末期患者の付き添い



【ふれあいまつりでの健康相談】

② 地域リハビリ活動

～高齢者や介護が必要となった人々が生き生きと生活するために～

- ・企業と地域をつなげる「地域リハイノベーションフォーラム」
- ・地域リハを活性化させる豊田加茂地域リハビリテーション懇話会
- ・SIB活用による介護予防事業



【ロボット技術活用地域リハビリ医学
寄附講座太田喜久夫 教授】

③ 総合アレルギーセンター開設

～市中アレルギー診療の向上・均てん化～

- ・アレルギー診療体制の構築
- ・アレルギー疾患需要の掘り起こしと市民や医療従事者の知識を醸成
- ・吸入の効果が高まるホー吸入の実施と広報活動
- ・耳鼻咽喉科・皮膚科の開設



【愛知県アレルギー疾患医療連絡
協議会会長 堀口高彦 病院長】

【一般事業】

① 地域医療連携室の取組み

- ・総合相談
- ・市内特別養護老人ホームとの連携
- ・日中活動デイの通所を併用した医療型短期入所・レスパイト事業

② ほがらかふえ

- ・院内レストランの地域活動
- ・多世代のボランティアスタッフ
- ・イベント活動の場

③ 豊田つながりプロジェクト

- ・市民公開講座、健康講座、認知症カフェ、介護者のつどい
- ・梅坪台交流館との協働イベント
- ・豊田市消防隊との症例検討会

(2) 地域医療DXの推進

デジタルなど新たな技術を取り入れたスマート・コミュニティ・ホスピタル

【重点事業】

① 地域リハイノベーションセンター&スマートリハビリ

～先進技術の活用により安心快適な在宅生活を可能に～

- ・ロボティックスマートルーム
- ・モビリティライアルルーム
- ・サフロ健診コーナー
- ・シームレスリハビリテーション
- ・ウェルウォーク・BEAR等
- ・眠りSCANによる離床時間の計測



【転倒による骨折予防ロボット】

② 次世代ナーシング

～セル看護提供方式×デジタル機器＝より長く患者に寄り添う看護～

- ・ケアの受け手の価値を最大化するセル看護提供方式
- ・非接触型の離床等を検知するセンサー、患者情報を取込むベッドサイド端末、物品管理システムを搭載したスマートベッドシステム
- ・音声入力システムのデモ実施



【スマートベッドシステムを導入】

③ 呼吸器患者のICT連携システム

～呼吸器疾患者の情報共有体制の構築～

- ・豊田みよしケアネットの活用によるアレルギーに関する医療の均てん化
- ・重症喘息患者の特定や専門医への相談・紹介の促進



【ICT連携システムのイメージ】

【一般事業】

④ トヨチサポーター

- ・ボランティアの組織化・活性化
- ・飾り付け、コンサート、絵手紙講座など

⑤ トヨチファン開拓プロジェクト

- ・戦略的広報活動
- ・ブランディングの強化と職員のエンゲージメント向上
- ・SNSや地域交流連携による口コミコミュニケーション

① ラインワークスの運用見直し

- ・ラインワークス運用WG
- ・コミュニケーションの円滑化
- ・情報共有の促進

② クラウドERPシステム活用

- ・押印決裁見直しWG
- ・人事労務、ワークフロー、経費精算、勤怠管理、給与計算等の業務軽減と効率化

③ スマート健診

- ・来院受付機と自動精算機の導入
- ・健診システムの更新予定
- ・WEBの予約、問診、結果配信等

④ マイナ受付

- ・マイナンバーカード健康保険証対応
- ・マイナンバーカード普及に関する広報活動の実施

⑤ オンライン診療

- ・医療に対するアクセシビリティの確保
- ・医師の働き方の改善と業務の効率化
- ・オンライン診療のフローチャート作成
- ・発熱外来の初診オンライン体制の検討

⑥ 在宅部門でのデジタル機器活用

- ・運行管理システムの活用
- ・環境配慮と効率の視点からC+pod(EV)を5台導入

(3) 地域医療人材の育成

在宅医療など地域を支える医師・看護師・療法士等を育成する病院

【重点事業】

① 総合診療プログラム

～地域医療のミライを担う総合診療の人材を育てる～

- ・豊田市の地域医療連携を推進する総合診療医の育成
- ・総合診療医による新しい中小規模病院のあり方を提示
- ・地域包括ケアシステムの発展に寄与する連携地域医療学講座を設置



【総合診療医の発表】

② 地域医療人材育成センター

～在宅医療推進のため、最大の資源である“人”を育てる～

- ・在宅医療推進の拠点として、地域の在宅医療を担う人材を育成
- ・豊田訪問看護師育成センター
- ・豊田総合療法士育成センター
- ・在宅医療を担う多職種との連携



【グループワークの様子】

③ トヨチ流おもてなしプラン

～接遇集中改革プラン～

- ・職員等接遇能力向上プロジェクト（3年間集中改革）
- ・接遇向上に取組む組織の中核となる接遇トレーナーを創設
- ・職員一人ひとりの弱点の克服と一人残さず標準の接遇力を身に着け、満足度の高いサービスを提供



【接遇改革の実現に向けたSTEP】

【一般事業】

① 豊田地域看護専門学校

- ・カリキュラム改定によって「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称変更し、療養の場の多様化に対応
- ・地域活動への参加、ボランティア活動の積極的参加
- ・地域特性・人々の暮らし・多職種の活動を教育に反映

② TQMプロジェクト

- ・小集団活動により医療・サービスの質を継続的に向上
- ・課題を抽出し、計画、実行、評価、改善のサイクルを繰り返し実施することで、より一層の高い業務ができる環境を提供

③ カイゼン文化の醸成による人づくりプロジェクト

- ・トヨタ生産方式を用いてカイゼン（業務改善）を推進
- ・正常・異常を顕在化し、現地・現物・現認で問題を把握、改善を続けることで、業務効率化だけでなく、組織体質を強化